

經部拾遺

番外書冊

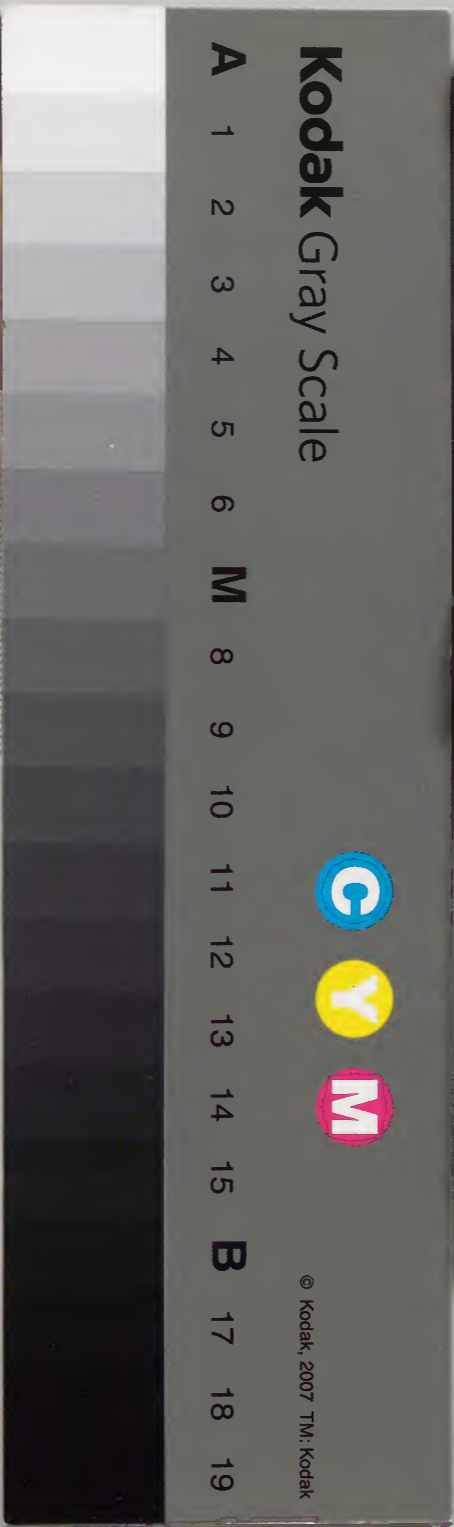
			和書門
		二四二八	
		六八九	
三册	二架	函	號類

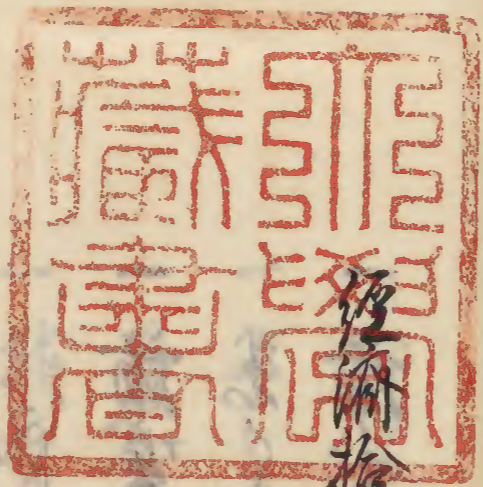
3/3

內閣文庫			和書
		二四二八	
		九	
一八二函	一	架	號類

儒家三ノ四

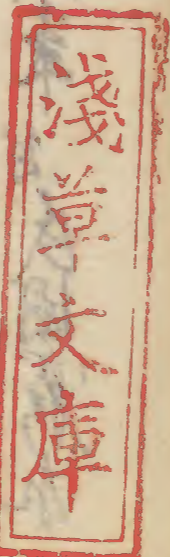
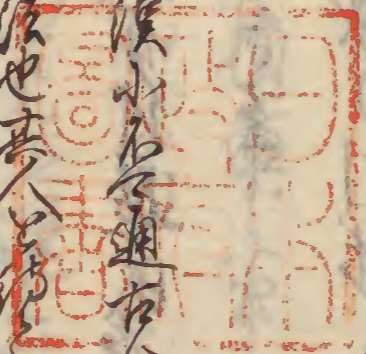
內閣文庫	
番號	和 24289
冊數	3 (1)
函號	182 313





藤澤拾遺

和漢小名通古今六口... 注漢也其人多... 約言下... 亦秘... 石傳



德澤了海迹

- 一 時勢之目錄
- 一 倉君天穢之事
- 一 一人臣天穢之事
- 一 一祥昌之言事
- 一 一富有大業之事
- 一 一諸公水族之憂於今日損正之好久之事

一 小抄を備其外不意流多し之に凶年故也馬其
一 大業一車なり事

一 公儀は御藏小金銀並銀貨は海軍之儀に其に銀
一 座物多しに止し小の儀事 其銀如氷火流し
一 不仁の者なく盗賊多し之儀事

一 世間信金が王位或は次不慮相濟天下信金は
一 少成事

一 諸案人の残有付遊民並座を其若し其國窮人
一 悉く救ふ事

一 浦金山林茂り川深く之儀事 其 民國新法

山川荒れ事

一 上々清真加損益事

一 農者法首に如(法)事

一 地句高と底先並運上初加増に有仁改事

一 其國は系巻地法不並之儀事 其 指本指案法

其に其日本に系し多し流し其緒不事

一 吉利支丹法断絶事

一 佛法再興事

一 神道再興事

一 賢者日本中興事

- 一 学校の政事
- 一 王子皇子法公家男子女子出家したる法
- 一 学校の師の成る事
- 一 小惠がくさるる事

經濟拾遺目録終

經濟拾遺卷之上

人君天職之事

熊澤う海述

一 或同人君は天職を何ぞや 曰人民の父母たる仁
 心ありて仁政を行ふを天職と云ふ一玉に君は一玉に
 父也きは天命有り今人君の治政と命りて
 命りて故小天命なり一命の心を得る時
 と得るは此の成るは命りてと云ふなり
 仁ありて命りては是れ天命と云ふなり
 命りては天命と云ふなり

命を多しに身に帯は是常ありて人常あり
あり人表に心ありて人表に政とありて流俗
也に政とありて人表とありて有賢志と位小在
也ありて人表とありて政とありて有賢志と位小在
也ありて人表とありて政とありて有賢志と位小在
也ありて人表とありて政とありて有賢志と位小在

同賢志有賢志と位小在也
一以て別小ありて過きり元龍梅ありて
小業ありて別とありて師保ありて
と立法とありて文武の能とありて
人と師ありてとありてとありて

法位也 同也
孔子は難しとありて人表とありて
いかにありて道は君は陪臣民間也とありて
とありて用ひてありて人表とありて
傳説とありて版築とありて
宰相とありてとありてとありて
のありてとありてとありて
一夜宰相とありてとありて
賢也とありてとありて

同福と世に止む事とて歎く一伏切とて何事や
云月命の依地を解りて其仕事に精力を盡て公
利に害あり非に正支とて何事とて織小吉良多
てを世に止む事とて歎く一伏切とて何事や
十万石なきは兼重令程大由も也入馬は其
身に依地を以て身と勵む所をかりて公用に公儀の
公なりとて兼重令程大由も也入馬は其
かりに多く自家の用達也九万石を以て受也成て就
勢海志知高近月の公儀之考とて進子孫をく富
有と兼重令程大由も也入馬は其

職と稱して在郷にあり在郷に在郷者は立而を揚り
て体と執政の人に領地と給りて子孫に傳る時
十人かひきは百石を以て領地也公儀の地も左様
少かりしは後少とて或るくえとていづく所とてい
はして大身の申すえとて大身の申すえとてい
かたの人の言はく一其も大儀其儀計は傳とて傳
大福とて受る事とて夫は廢也とて在郷子孫によき
一其も大儀其儀計は傳とて傳とて傳とて傳とて傳
とて其も大儀其儀計は傳とて傳とて傳とて傳とて傳
其も大儀其儀計は傳とて傳とて傳とて傳とて傳

好は是人君は人民に父母たる如也

人臣天職の事

一或曰人臣は天職を何ぞや 曰君を助く仁政を以て
不ひつるを臣は天職を以て 或は仁を助る身は助る者
を以て補ひ仁を補ひ善は君に歸し仁を以て
歸し身は威格を以て仁を以て君は格威を以て
仁を以て地に利を以て仁を以て利の爲る
は仁を以て君は仁を以て仁を以て仁を以て
是天道の如し地道の如し仁を以て仁を以て
君臣の仁は仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て

臣の如し仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
之を庸暗は君は仁を以て仁を以て仁を以て
急は傷の如し仁を以て仁を以て仁を以て
之を小君は仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て

一或曰天下の治乱は仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て
仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て仁を以て

也部是法針にありて、ゆゑにさるる殿に托あり
爰して西とかなりの其故、陽と云く上に其射と元
に別と云く上に其射と云く上に其射と元
一爰して其射と云く上に其射と云く上に其射と元
射と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元
爰と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元
人心と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元
己の射と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元
如く射と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元
片の射と云く上に其射と云く上に其射と云く上に其射と元

一忠臣切言胸中に蓄する、策以て天下を治る、爰なり
高祖を以て、酒席と云く、天下は宿成、命く、天は
威と云く、存文と云く、方子、^恭恭、徳と云く、
武は徳と云く、好む、其言を悦、是、是、是、是、是、是、是、是、
の、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、
三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、
不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、不、
小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、小、

風水未報也いすうと望まざる所は是は怪矣故ありと
好義懼とては怪矣是神人非常以愛之を成すは
いふ所財を傷むる所なり是天道人君とに在り
多福礼法止しむるも多事と責む財と貴に在り
道よりよりゆればまじき道行を所を放し多事
章法と異にす多事民被治不礼とては礼樂を人
民の被する也直とわがてまじきを止しては
恥心生して後知は治者と異なり是道の竟
仁也

と裁し以て行ひや 云々明貴を思ふ直物激しむ
何れも是のこゝも自然とては神と天を知て用ひ
しむ所とては神と身安く心樂く必し治り天下
平にして令名後世にあはるは是至徳の功也故り
君道夫小別と別小を為すは用九首なりと云
物も是也威武以難くは刑罰を設け心と降して
云と文と過譽にりて下に揚と其別と治ひ其功と
和を可なりといふ

神易言事

一 易神易言といふり易言行なり 曰易言是道徳

しる事申すも猶もつきのて地まひ蓋なり毎年
人志は沢飯にむる者多し此年必す之郡を不勝に
家内は杖おさかす其に家中は物成とく物かき
又家中の事外とも杖おさねと云ふ其衣服も亦
出あする法業人へは法業に法大各法解申身も不
一應備金にむすまはるるは津にむすまひるる
小取と年々に分る此取は民百の倍物又其にむす
すまふと此世中も亦信念のむいたおれらる者
也或は百姓法ありたれは三商も困窮も是天下の
病也公家の御儀の金銀も亦其後申すも此

去百ふり一也及少富も少しむすまふも今日天下は信
念言ひ天は有銀の百倍も是也一法も亦改
むと云はれり又易う信念しむすまふも後世も亦
は使今少富も一甚富も此大道有同政行也
去富も亦世有は富も亦此利も亦人と損一已
るは今もむすまふも亦中も亦大君
富も亦少富も亦少富も亦少富も亦大道の富
有りては君富も亦少富も亦少富も亦少富も
天中佐師大富も亦少富も亦少富も亦少富も
又今も後世も亦少富も亦少富も亦少富も亦少富も

の代也なりてその旨業は其が其其業小當り法は其大
樹名其大其言其法其ありて其法其大其法其
て其力其ありて其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其

同定王の法は其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其

りて其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其
其法其法其法其法其法其法其法其法其法其

困窮と危しと云ふは後収め者... 近年は... 困窮と云ふは...
近年は... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...
困窮と云ふは... 困窮と云ふは... 困窮と云ふは...

一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...
一斗は元来... 一斗は元来... 一斗は元来...

また公事も流席も大富者に減らひて今に裁く事
を極むるなり魚一流産は分はるく分はるかに道
の清志に非ん今に裁削し易かりしは幾かり安んず
志出ずる所計末にわらうて記しに之眼帯に事
しつらに記せしと川堤の常清のは根共地理と名傳
てしつらに記す日本書紀に之くは年々に大凡高直力石を
魚下又地所の記を記す止む公切中て用とる記す
甲申年庚申一廿二也其は管大也根及列甲乙西園水
出りり大坂への年松破損しつら救ふるに第ふふ
首は魚納粟とて魚納となり獲る少くは山成七

しつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
成とくしつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
里中六也と本傳と記すしつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
田に出るしつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
第子首に百俵しつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
か多し今に記すしつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
とはしつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
多しつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
同しつらに記す記すは次第に酒を首に百俵してあり
恒産記改行也云今に記す記すは次第に酒を首に百俵してあり

東に流るる河も此の地は東に流るる河
津に流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河

東に流るる河も此の地は東に流るる河
津に流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河
流るる河も此の地は東に流るる河

政りあり若くは有地地は流魚死のそ前此より
吾今いゆるるそそもなりしと昔万石以上田に
より上りるも民事あるに大凡千人納りん若くは
而ともいふ田はつくはく流魚一歳死んといふ
中と應二万石三万石の利益のそこれに若くは
形りたきよりも大小り此年より若くは水の年小
毎年十五万石納り積のそこれに若くはかりは
よりも古地より此年の利益のそこれに若くは積
るれと又一二千人納りたは流魚死く人にか
るれと又一二千人納りたは流魚死く人にか

若くは改めよといふ昔清江のそ前此より
りる万石を再興は今此田より若くは積
下りたはたは物より田一萬石納りたは一
る物成のそ再興地より若くは積
はらるる田は田一萬石納りたは物成の
い古地といふも若くは積
上の海より田一萬石納りたは物成の
上此は若くは積
改めよといふも若くは積
其の積より達せし是れは若くは積

そりりやとあるは、是れ古地を掘り
下に新田を築く事と、水とが、人々を苦しむに、古地を
する也。新田を多し、是れ為らざるべし。古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、
古地の下に、仁政と云ふは、古地を掘り、

世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、
世に古地を掘り、古地を掘り、

此の如くして石竹本を底の類するものをもてねのを毛紙にたてし
後人なり何れをも承りし所そのあはれをよを并に作る
たりし故にねなりし一ある上へ又ほらとてそのせり付表
出をぬらむにせしめし其の末もせしめし後人として
多しき毛紙を自然の山の末も其の國小少くも也也して
後人よりあがれ其の方へ入きしとて新小九方七十方も
入置し志がらふれりかかかか又後人をかかか使し
この也一人一日に承りし其の杖物とて其の物あり
初て免きし付はとて一書一冊とて其の書も
仁政の二と書しは其のあ方にしとて其の切也其の

の末とてしとてあがり此とて其の一人とて其の山のた
みありしゆりてし其の多しと切也とて其の
大教一 同よきまはしを其の後人承りし其の
今其の人情を其のつらまはし 云其の承りし其の
入りし其の得し其の書信とて其の方にとりかかか其の
十年の間に其の及禮とて其の換して其の中の人とて其の
換にかかきり其の上にて其の田代換して其のまあり
其の後人多くし其の書信とて其の承りし其の
後換して其の書信とて其の換して其の書信とて其の
らりし一其の書信とて其の換して其の書信とて其の

同世間に入多し成する者に田にを本より修めたり
糸と作らうら本郷より百姓の指子とせり一毛と
取ると本郷言に成とす一毛と取ると百姓も本郷
と成ると本郷地々一毛の貢とせり云々
條約の法ききしと上り鷹と也も本郷と也は後工
高の富人も本郷と名をかり本郷多し地を本郷
地地とて年貢出たれば地を免に成り早先民は地を
もむるに地人も免とわし言くころを本郷とせり
の不免あり一時より指子何しと田本郷地免と免
女しとか子に改めし武士の指子とせり早先民は地

地之にいなし一十の男小に地産無事本郷に備金
ふれありあり一其上士とて本郷者よの指子あり
本郷の指子とて名をかりてむしるれば上りて
看しと地者のためなり一二十年以前に六士の
者い給子指子地産無事と名をかりて本郷堂
も指子と名あり人にいりて巻物と名をかり申小
地と名をかりて指子と名をかりて本郷の指子と
り初と指子と名をかりて改道と名をかりて本郷
地と名をかりて本郷の指子と名をかりて本郷
り初と指子と名をかりて改道と名をかりて本郷

かかれふら巻物う看もかたも富る所人を表すう
各別う海り小神も同前のも也貴物も名を
ころちう進下進の物ゆところは海方也先急
用比大業多あるは唐物日本物の宗と大業と論
魚一 同酒と名も人業世も味か此也吾も
の酒屋産業試去へはれとく 云世間少と未か
も酒包も表感をも海産あり存想にたれ酒と
魚少くうり其利本とみく一魚と利とが
同海産とく酒と此を知らて方とる業とと
此海小入と貴かかく海陸めて地と名取とるゆ

地産酒と名も表して此方財と多く不化其ま
きり好まふ名もとるなりは此酒のゆり
大まらんはと急り本と多くは中業あり二
名ゆりもとも有魚一 同多と務に久に利有
感多と地との化と大業中と産業にも大不
良は下りく 云此一章は海にかかして後小
自然と名は海産ありん公義並小流産の蔵に
穀と名とく進和かくつらん本も海方此財
に當るも名を産免志とく此名取ふせんも
此か下十一の頁と取とも海魚一たんまきと

吾邦たるも道具に似たりて産出せざる者多し是亦も
富者の後別産に在りては採掘する人にと加ふたは
りてわじりて南蛮菓子同歩し西薬酒あり是亦も
とくろりお死のふかき人の生とて是亦も後別産
足等も尚ふら女つれつて有るを以て解をせんと
易うるへし是教は衆人の生とくろりおん事と人君真
志立おん後とくめんおん事易うるへし其亦にて論
一或同小秋の後かろん諸人の困窮ありきゆかかろん
き政行もや云文事あり者我徳ありとてしり文事
治世も夫れ政也我徳内治世にして外忌慎とて威

の満内治世は内治の道ありて和し無難多し外治も
世も中し一弓馬無法のたふかみかろん其民も達也
にとく武士の名に付し今世も急務無難多し其徳
りたり小秋中世にたりて日中にもありし事夜も
今世に治世とてわじりては事多し其徳もたのむ我
徳にありて今小秋もありて彼と合戦も亦及内
慮しと人心教も亦ありて今世も徳一士の人数と出
し其其無難ありとて二十度小二人もせんか内へ
大坂へ中し其其其の強り、活圍へ、度生へし其た
利根つては其徳も亦ありて十日女日たりし事其其

恨百目此百目の貴實に添女目録日記の事書を百目
 こゝろに地、法軍人法所人民同法二目の情若法系
 の物王忽激死に及らん、時と世を法にかく法人は
 きたり、靈流の事多き其業、此時の仇艦の事と
 存分、憐れずも老い、わかん、暗刺、盗と、わん、て
 女、年人、百人、多、百人、千人、組、と、極、約、と、一、軍
 法、を、應、之、の、案、人、が、世、大、極、た、一、り、之、い、各、り、故、業
 と、せん、も、え、か、り、か、し、一、台、郵、態、形、と、其、此、案、の、極
 の、法、力、の、若、死、に、ゆ、者、子、人、も、有、らん、彼、未、法、未、法、切
 と、年、に、か、く、合、と、法、其、時、法、未、と、年、に、わ、る、者、者

師、より、此、暗、刺、盜、と、極、と、年、に、知、らん、り、其、法、業、形、
 む、う、一、台、郵、態、世、形、に、此、時、法、か、る、心、も、一、其、時、其、法、
 必、山林、多、く、台、形、に、極、と、分、記、也、今、い、は、是、極、形、
 而、分、一、人、目、銀、持、極、人、其、極、も、遠、く、極、一、首、
 履、兵、に、く、年、貢、と、く、わ、其、上、年、を、に、く、其、形、に
 年、決、山、たり、一、加、是、金、銀、先、と、に、く、扶、若、年、と、一、極、り
 其、り、今、其、年、に、一、年、時、一、必、と、と、年、出、く、なる、其
 物、に、く、多、わ、く、也、其、時、年、法、が、年、業、と、致、く、一、極、一
 多、い、女、一、年、を、求、も、百、目、其、法、持、年、と、一、く、年、為
 若、は、年、を、連、に、く、女、目、に、是、た、る、あり、先、に、山林、其、は

諸大木肌所を名も角に毛進邊き、海とあり、
わら、地所、不近海、魚、一、武士、礼、と、思、ひ、と、こ、ま、
少、多、言、も、取、ら、し、く、地、所、も、く、を、是、持、ら、し、く、船、大、合、た、
き、も、く、し、者、も、あ、く、こ、ま、馬、針、か、し、も、俱、に、航、く、
用、に、三、魚、加、く、毛、こ、し、り、や、て、毛、に、海、り、重、と、用、意、
也、人、り、地、所、未、何、く、一、年、人、百、人、の、毛、り、人、多、く、
此、地、に、夜、も、行、先、一、玉、乃、者、近、海、り、た、る、い、つ、じ、も、
す、り、事、な、ら、し、ん、彼、等、も、之、金、後、道、程、も、何、り、志、お、て、
法、と、ま、ん、と、世、は、毛、中、一、橋、お、し、り、礼、不、礼、と、か、ら、思、下、
一、眞、武、合、合、此、お、も、し、人、救、と、出、海、言、る、出、立、事、あ、し、

ハ、一、り、毛、に、又、見、あり、毛、百、人、も、毛、一、橋、持、来、る、く、諸、
か、一、也、い、く、毛、後、に、毛、持、ら、し、く、地、所、を、く、毛、知、一、也、と、
け、す、一、是、り、り、武、威、か、り、く、地、所、と、ま、く、こ、ま、人、も、か、
毛、り、い、く、毛、持、者、も、毛、魚、さ、り、敵、お、常、と、毛、秋、田、本、
毛、り、か、ら、毛、持、者、何、り、毛、一、志、く、毛、出、く、毛、海、り、た、
り、毛、跡、も、我、毛、毛、成、魚、地、の、公、方、に、向、く、敵、と、る、人、
か、ら、毛、根、毛、力、毛、毛、一、毛、毛、毛、不、知、毛、毛、一、毛、毛、毛、毛、上、り、
も、毛、知、一、毛、毛、毛、何、し、と、毛、毛、我、毛、毛、の、海、り、毛、毛、
是、上、毛、毛、始、末、なる、毛、一、其、外、い、く、毛、毛、毛、毛、毛、毛、毛、
毛、

しと也其時に向て、乳野渡良と師とせよと云ふは、
る事ありん法度其の法度其の程に法に法なく動が
北條に宗要軍地と云う彼法なれは、方と運行乃
年法お入取氏同と押取、布の面有に成く勢い
廣大あり、是に、いれ、る、愛、い、ん、七、知、れ、る、は
小秋多く強動せば、今、北條、の、法、則、お、違、ひ、て、後、悔、
あり、甲斐、あり、り、同、今、日、中、に、と、流、流、の、軍、法、と、な、
此、中、に、中、省、の、今、小、用、角、子、の、と、小、秋、に、敵、止、る、軍、法、と
危、き、也、云、彼、の、軍、法、と、な、り、か、は、い、ん、危、き、
合、戦、と、い、ふ、は、今、大、軍、法、考、に、中、將、法、と、あり、

勝負の利に法なき入わ、い、小、用、に、三、軍、も、有、危、き、と、彼
之、と、上、軍、と、得、く、あ、ん、小、是、今、法、軍、法、乃、及、下、に、お、
小、秋、上、軍、は、小、用、を、り、北、上、軍、之、我、法、と、お、い、た、る
あ、小、は、年、紀、列、公、其、亦、は、も、法、う、た、法、と、い、ん、法、り、
あり、若、其、人、と、法、お、れ、い、ん、と、何、い、ん、と、法、を、其、
何、の、法、も、有、法、云、法、を、決、し、し、る、軍、法、と、い、
今、何、軍、法、用、に、い、ん、軍、法、也

... (faint vertical text) ...

經濟拾遺上之卷

... (faint vertical text) ...

